第５回三次市総合計画審議会　議事録

日　　時	平成２６年１月２９日（水）　１４時～１６時
場　　所	三次市文化会館２階大会議室
議　　事	(1) 三次市総合計画（案）について (2) その他
委 員 等	＜出席委員＞ 【会長】伊藤　敏安／広島大学　教授 【職務代理者】細川喜一郎／三次商工会議所　会頭 安藤　由子／国際ソロプチミスト三次　会員 伊藤　優子／三次市文化連盟　理事 岩崎　　積／青少年育成三次市民会議　会長 小山　理恵／三次市保育所保護者会連合会　監査 田村　武敏／三次市社会福祉協議会　会長 冨野井利弘／三次農業協同組合　代表理事専務 信國　秀昭／一般社団法人三次市観光協会　会長 邉見　俊宗／三次地方森林組合　代表理事専務 前田　　茂／財団法人三次市教育振興会　理事長 箕田　英紀／三次市公衆衛生推進協議会　会長 村山　朋子／三次市女性連合会　理事 安信　祐治／三次地区医師会　理事 清本　久子／広島県北部厚生環境事務所・保健所保健課　課長 西本　寮子／県立広島大学　教授 脇本　修自／日本赤十字広島看護大学　事務局長 岡崎　　薫／市民まちづくり塾１　副座長 馬場　博通／市民まちづくり塾２　座長 升井　　紘／市民まちづくり塾４　座長 田村　謙宗／市民まちづくり塾５　副座長 月橋　寿文／市民まちづくり塾６　座長 正光　祐希／市民まちづくり塾　　委員 的場　由樹／市民まちづくり塾　　委員 ＜欠席委員＞ 小林真理子／三次市ＰＴＡ連合会　会計 田原　和彦／三次市広域商工会　会長 田村　眞司／三次市住民自治組織連合会　会長 山岡　克巳／財団法人国際交流協会　副会長 猪森　正一／国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所　所長 深水　顕真／市民まちづくり塾３　座長 ＜事務局＞ 津森　貴行／三次市　副市長 藤井　啓介／三次市地域振興部　部長 長田　瑞昭／三次市地域振興部企画調整課　課長 宮脇　有子／三次市地域振興部企画調整課企画調整係　係長 林　　美絵／三次市地域振興部企画調整課　係員

１　開会

（事務局）

ただいまから第５回三次市総合計画審議会を開催致します。

２　諮問

（事務局）

会議に入る前に，三次市長から本審議会に対しまして，三次市総合計画（案）の諮問をさせて頂きます。審議会を代表しまして，伊藤会長へ諮問させて頂きます。よろしくお願いします。

＜諮問＞

（事務局）

この度の諮問に当たりまして，増田市長から一言ご挨拶を申し上げます。

（増田市長）

＜あいさつ（略）＞

３　会長あいさつ

（事務局）

伊藤会長から，ご挨拶をお願いしたいと思います。

（伊藤会長）

いよいよ第５回になりました。次回が最後，しかもその時には，答申という形で最終的なまとめを行わなければなりません。そういった意味では，この第５回が一番重要な場になると思いますので，皆様方から色々なご意見を伺いたいと思います。よろしくお願い致します。

４　議事

（事務局）

ただいまの出席委員は２３人でございます。定足数に達しておりますので，これより議事に入って頂きます。それでは伊藤会長，進行をよろしくお願い致します。

（伊藤会長）

議事に入る前に，規定によりまして，本日の会議録署名委員を指名させて頂きたいと思います。

清本委員，箕田委員のお二人にお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

(1) 三次市総合計画（案）について

それでは議事，三次市総合計画（案）について，事務局から説明をお願いします。

＜資料説明（略）＞

（伊藤会長）

前回審議会における皆様方からの意見が，別紙一覧表でついております。

それから，第４回審議会での計画案に基づき，１２月に実施されたパブリックコメントにおけるご意見も一覧表になっております。短い期間だったのですが，１９通，９８件の貴重なご意見

がきております。それを踏まえてこの最終案を作成されたということです。
先ほどの事務局からの説明等につきまして，質問何かありますでしょうか。
（質問，意見なし）
それでは最終案について，皆様方のご意見が反映されているか，また，変更された箇所等についてお気づきの点がありましたら，それぞれご意見をお聞かせ頂けたらと思います。

（委員２）
今回の案を，前回の素案と比べてみました。各委員から出された意見が反映されたり，追加されたりしており，内容・中身が濃くなってきて良いと思いましたが，残念なことに，私が言った「喫煙の身体に及ぼす影響・正しい付き合い方などを書き加えてほしい」という意見が反映されていなかったので，再度言わせて頂こうと思って，今日きました。
そうしたら，本日資料の第４回審議会における指摘事項等対応表の３頁目に，私の発言がありました。対応としては「具体的な取組の中で検討する」という返事でした。
今回は最後ということになるので，本腰で調べてきました。
資料は「第二次三次市健康増進計画　健康みよし２１」で，計画期間は平成２５～２９年度までの５箇年です。これによりますと，平成２２年２月に，厚生労働省から受動喫煙防止対策について通知があり，公共施設の全面禁煙の推進や，子どもの利用が想定される施設は屋外を含み，受動喫煙防止の配慮が必要であることが示されました。
当該計画では，市内公共施設における敷地内全面禁煙施設割合は平成２４年３月時点５９．１％で，敷地内全面禁煙施設数は増加していますが，三次市目標値の７０％には達していません。そして平成２９年度における最終目標は１００％となっています。
また，たばこは生活習慣病の最大要因とされ，多くの疾病に及ぶとともに，禁煙が健康改善につながること，受動喫煙によっても，がん，虚血性心疾患，乳幼児のぜん息や呼吸器感染症，乳幼児突然死症候群等の原因になる，ということから，今後の取組として，たばこが健康に与える被害の啓発・禁煙の推進をあげています。
前回は「子育て」に関連する内容として発言しましたが，今回は「保健・医療」の項目として，ぜひ追加して欲しいと思います。２３頁「取組の背景」では，最初に書いてある「健康づくり」に，そして「取組の方向性」では，参考となる指標の中で「市内公共施設の敷地内全面禁煙の実施率」あげてもらえればと思います。
また「具体的な取組」では，「市内公共施設の敷地内全面禁煙化の推進」と，「毎月２２日吸わん吸わん禁煙の日を活かして受動喫煙防止の啓発」という２項目を加えてほしいと思います。
「２２日吸わん吸わん禁煙の日」は，ケーブルテレビでも告知されているのですが，ブルーの丸の中に白鳥が二羽並んでいる姿があります。白鳥，スワンが二羽いるので，スワンスワン，たばこを吸わない，吸わん吸わんということだそうです。ぜひ，取組の中に入れて欲しいと思います。

（伊藤会長）
重要なご指摘だと思います。個別の対応については，ここではまだ議論できないと思いますので，承りましたということにいたします。

（委員３）
私はやはり，まちづくりの主役である「ひとづくり」のところが一番気になります。
子育て中のお母さん達が，今一番欲しいものを聞かれた時に，第一にメイドさんが欲しい，そして，保育園が欲しい，おじいちゃんおばあちゃんが欲しい，と言っていたそうです。子育てを

夫婦でしていく，家族全体でしていく，ということが必要で，そのあたりが書き加えてあるとよいと思います。

それから，非常に突然だと感じているのが，１８頁「小中一貫教育を推進します」という箇所です。市内では，「小中一貫教育」は三良坂が最初だと思います。三良坂の「小中一貫教育」は，校舎の耐震化の問題，児童数の減少から，この際，学校を建替えて一緒にしよう，といった考えであったと思います。学校は，私達にとって必需のインフラであると考える人が，市職員の中にでも，教育委員会の中にでも誰かおられればいいなと思います。学校は統合してもいい，地域から学校が無くなってもいい，というのではなくて，学校は，出来るだけその地域に残していく。国会議員が国会で，地域から学校を無くすという事は，その地域のコミュニティがなくなる事である，というようなことを総理大臣へ質問していましたが，私達が考えている通りだなと思いました。市議会議員もいるのですから，一緒に考えて欲しいと思います。地元にある学校との関わりは，高齢者が一番多いと思うのですが，地域から学校を無くすということは，子ども達と高齢者との関わりもほとんど無くなってしまうのではないかと考えます。子ども達と高齢者との挨拶にしても，子ども達が学校に行く時間に，道路に立って，おはようと言っているのは高齢者です。

小中一貫校のある他市で，小学１年生と中学３年生の子が保健室に来た時に，大きい声で中学３年生の子を叱ったら，小学校１年生の子が泣いたという話を聞きました。保健室は２つないといけない，養護の先生一人で，小学生，中学生の対応は非常に難しい。

また，今，子ども達が住んでいる各地域のコミュニティが，統合した小学校へ行っても無くならないような教育を行って欲しいと思います。青少年育成の会議に出て，今頃の子ども達が何を考えているのかなと思っていたら，子ども達が「僕たちは山の中の田舎に住んでいます。でも，うちの周りの人はみんな僕に「いってらっしゃい」とか「おはよう」と挨拶をしてくれます。街へ出たらそういうのはないけれど，自分の家に帰ったら，地域の人達との繋がりがあります。それは，小さい時からずっと見守ってきてくれた地域の人達があるからです。」と言っていました。小中一貫校になって見守りがないとは思いませんが，難しくなっていくと思います。

それから，どうやっても高齢化していくのですから，それをお荷物に考えないで，高齢の人達を対象にした仕事もある，というふうに考えていけばどうかと思います。

子育てで，おじいちゃんおばあちゃんが欲しいというのもありましたが，おじいちゃんおばあちゃん，お父さんお母さんと子ども達が住むような，昔の大家族のような，元の家族の形を作り直すという考えはないのか，お金をかけなくてもうまくやっていけるようなことも考えたものができればいいのではないかと思います。

その他については，良いことが書いてあると思います。

（委員４）

７頁の課題「人口減少・少子高齢化」を読んでいくと，集落再編といったことが出てくるわけですが，人口減少というのは，それに対応できる地域をつくっていけば，極端に言うと，各地域の戸数は少なくても済むわけなので，「人口減少に対応できる地域づくり」というような考え方を文章に入れてもらえればなと思いました。

それから，尾道松江線という表記がありますが，できれば「尾道三次松江線」としてもらいたい。三次を通過するのに三次が入っていないのはおかしい。可能であるなら，入れて欲しいです。

また，「公共交通」という言葉が使ってありますが，「公共」という言葉は無くてもいいのではないかと思います。今後，それぞれの地域に対応した体系を組んでくるであろうと思われます。「交通」だけに関して「公共」という言葉が述べられているのでは困る，という面もあります。

９頁「防災・減災」で，「消防団や自主防災組織などの相互の連携」とありますが，ここへ「行政との連携」ということもいるのではないか，と思います。

それから，「仕事づくり」で，女性の起業への支援などが出てきますが，高齢者が今後増えてくるので，高齢者に起業を促すこと，これもひとつのやり方として入れられないのかと思います。

３５頁「美しい～」で，「鮎が住み続けられる」とありますが，できればここに「ホタル」を入れてもらいたい。具体名が出てなければ気にしないのですが，ホタルはどこにも出てこないのです。鮎は放流が多数となってきていますが，ホタルはまだ自然で十分繁殖しておりますので，是非入れてほしいです。

（伊藤会長）

いくつか重要なご指摘がありました。確かに交通について，移動手段を確保するという点では，公共のみの問題ではないと思います。

（委員５）

先ほど小中一貫校の話が出たのですが，都会的な市を目指しているのか，田舎というか，そういうのを大事にしているのかを考えた時に，今回作っているのは，三次の地理とか歴史を活かしたようなもので，人口が増えてくるようなものではないと思うのです。中高一貫校や，小中一貫校など選択肢が増えていいなと思う一方で，小規模小学校を残すということも，地域の特性ではないかと思います。子どもを集めてまとめて，都会型の学校にするというのもありだとは思いますが，小規模の小学校があるよ，という選択肢もこの中にあっていいのではないかと思いました。

２５頁「障害があっても自立して暮らせるまちづくり」について，括りが大きすぎるのではないかと思います。他の項目では具体的に取組が書かれている中で，少し曖昧であると思います。「障害」といったらものすごく範囲が広いので，これに書いてあることに意味があるのか，もう少し細かく書かないといけないのか，どうなのかと，少し分からないところがあります。

（委員６）

非常にいい計画ができたと思います。

三次市が，この計画のような状況でどんどんと前向きに進んでいる状況を見ておりますので，よくできていると思います。

（委員７）

１５頁の重点的な取組で「高齢社会への挑戦」，「挑む」というのが非常に目を引いて，いいことだなと思ったのですが，具体策をみると，高齢化社会への対応になっている。「挑戦」となっているのに，ギャップがあるなと感じます。

「挑戦」というのは，非常にいいのではないかと思います。高齢化社会は三次だけではなくて，広島市内，東京都内でも同じ状況です。ネガティブに捉えず，地域の資源として，活性化へ結びつけていくという視点で「挑戦」というようにあげてあるのかなと思いますので，これを三次の強みにする。高齢者が当たり前のように働ける，働くという生き甲斐を持ちながら暮らせるまちという，これもひとつの売り言葉になるのではないかなと思います。

それから，先ほども意見がありましたが，高齢者だけが暮らすという前提ではなくて，高齢者と一緒に暮らす家族を支える，という視点で何か取組があればと思います。若い人を頼って街へ行く，高齢者が出ていくのではなく，今度は，高齢者に住み続けてもらって，若い人が帰ってきて一緒に暮らす。若い人が高齢者と一緒に暮らせる地域，というのもいいのではないかなと。家族のあり方を見直すような地域，高齢者を基点に考えるような地域づくりというのもあるのではないかと思いました。

そのほか，農業のことを言えばいいのかもしれませんが，あえて一市民として，「高齢社会へ

の挑戦」というのを前向きに捉えた対策があってもいいのではないかと思いました。

（委員８）

子育て，環境，医療，農林業，多くの問題が山積みとなっております。

先ほども中国横断自動車道尾道松江線の話がございましたが，これは私も「三次」という名前が出てこないのが非常に残念だと思います。

中国地方の地図を頭に描きますと，日本海側には山陰道がございまして，中国道が真ん中に，それから瀬戸内海沿いには山陽道が走っている。それに尾道松江道が開通するわけです。これを王様道路と私は呼んでおります。ちょうど山陰と中国道と山陽道に，尾道松江線が縦に一本きますと，王様の「王」という字を書くわけです。これは全国広しといえども三次だけでございますので，その辺りをもっと強くアピールをしてもらいたい，という思いです。

８頁「環境の変化に対応した拠点性の確保」とあります。２行目には「人・モノなどの新たな流れを生み出し」とありますが，私はここに「歴史と文化」が必要ではないかと思います。道路が一本できますと，「人・モノ・金の動き」が変わりますが，それと同時に「歴史と文化」もアピールできる。三次にも大変重要な歴史と文化がありますから，その点をアピールしていければ，という思いです。

次に，先ほどから話が出ていますが，１９頁「中高一貫教育」に着目しています。言葉は適切ではないかもしれませんが，いい学校，いい先生がいればいい生徒が集まる，そこにひとつのまちができるわけです。中高一貫校を誘致することによって，いい人が集まって，いい人材が育成される，そういうところを期待しています。

それから，３０頁「観光」についてですが，この地域の観光ということにつきまして非常に興味もあります。こうした計画の中で，一番重要なことは「ホスピタリティ」「おもてなし」ということだろうと考えております。「おもてなし」の心を，もっとアピールできないかなと感じています。三次市は，交通網の充実は日本一です。そうすると，宿泊施設について，もっと具体的に表して，取り組んでいくべきではないかと思います。日帰り客と宿泊客の地域に対する消費額は，１対１０が基本的な数値です。よって，ここに「宿泊施設の充実」というのを記述し，アピールしていくべきではないかと考えます。

３５頁に「花の里づくり」があります。これは「美しい景観づくり」の一貫で，先ほどホタルのお話も出ました。私は，市外からお訪ねの方によく「三次には緑がない」と言われます。周辺の山の緑ではありません。インターを降りてから駅前通りを走る中で，確かに緑を感じないのです。例えば，広島市の１００m道路，フラワーフェスティバルが行われる道路一帯は，大変緑が多い。ビルも多いですが，緑も大変目につきます。「三次には緑がない，どうなっているのだ」，そんな話を聞くわけです。そういうところから，「環境づくり」「花の里づくり」による美しいまちづくりの推進，これは言葉は非常に綺麗ですが，もっと現実を見て，それを総合計画の中でどう活かしていくのか，ということをもっと考えていくべきかと思います。

最後に，三次の新しい市民ホールの活用，文化会館の跡地利用について，早急に検討していく必要があろうかと，強く感じております。

（委員９）

大変よくできていると思います。

先ほど，委員８が言われたように，「小中一貫校」を早く実現してもらいたいと思います。やはり，いい先生が来られると子どもが育ってくるということで，ひとつの産業，地域を活かした産業になると思います。

（委員１０）

計画（案）について，大変よくできていると感じております。

しかし，県北には安芸高田市，三次市，庄原市の三市がありますが，その中で，三次市はどういうスタンスでまちづくりをしていくのか，どういう役割を果たす市になろうとしているのか，というところが見えてこないと感じています。市民ホールの件もありましたが，千人単位の収容能力を持つ施設は庄原にもありますし，もっと三次を特徴づけるインフラ，そしてひとづくり。ひとづくりは大変重要なことだと思います。

そして，具体的に進行していけるものを示しながら，平成２６～３５年度の計画期間において，どのように検証してどのように評価するのか，具体的な効果が見えるよう，計画に盛り込んでもらいたいと思います。

私は，三次の教育に大変興味をもっているわけですが，教育の質向上のための目標数値が明確ではない。そして中高一貫校に対する理解，考え方が，市民の中で熟成していない，ということを感じます。そのあたりの目標を大きく掲げて，実現に向けて行動を起こしていかないといけないのではないかと思います。県内では，既に中高一貫校が実施された地域もありますが，市民はもっと必要性を訴えることが必要なのではないかと思います。そして，市民意識を向上させられるように，発信するまちづくりも必要だろうと思います。

こうした計画は，何年に一回かつくられるわけですが，実際に行動に移し，評価されるものであったかどうかを振り返ってみる必要があると思います。「百年物語」での「州都をめざす」というような，もっと大きな目標が必要だと思います。要するに，三次市は州都を目指すべきではないか，ということです。中山間地域の未来を拓く，拠点都市三次というのであれば，もっと大きく打って出なくてはいけないのではないか，という感じです。

どうかこれを基に，もっと展開をされますようご期待を申し上げて，終わらせて頂きます。

（委員１１）

農業の関係ですが，大規模農家に対する施策はありますが，小規模農家に対してどのような支援をするのか，ということが示してないので，このあたりを具体的に記述して欲しいと思います。

（委員１２）

老人クラブ，女性連合会，子ども会など色々な団体，グループがあります。以前は，家族の中でも，おじいちゃんおばあちゃんは老人クラブ，お母さんは女性会，お父さんは青年部，子ども達は子ども会というように，とにかく何かの団体に入り，それぞれ繋がりがありました。こういう計画を立てる中で，団体という言葉がないというのが，気になります。

一人ひとりが参加するということは確かにいいことですが，どの団体も参加者が少なくなり，衰退しています。それでも，魅力ある団体にしていこう，一生懸命呼びかけていこうと思っております。「ひとづくり」になるか分かりませんが，この計画に，皆の力が活かせるようなものがあればいいかと思います。

それから，１頁目下から３行目に，「市民一人ひとりの力を信じて」とありますが，この「信じて」が引っかかります。信じられないのかな，と思う。ここは「力を合わせて」でもいいのではないかと思いました。

もうひとつ感じたのが，外に向けての観光というのがありましたが，三次をＰＲするという意味での外に向けての計画もあっていいのではないかと思いました。くまモンが有名になったのは，あっちこっちへ出没したからで，皆が興味をもったことでくまモンが有名になり，熊本が有名になった。そういう意味で，三次を外へ向けてＰＲする。お金もかかるし，財政難だということもあちこちから聞きます。例えば，女性会では助成金をカットされましたが，どうしようかと考え，

自分達で収益事業をして財源を確保しようじゃないか，となったわけです。それはそれでひとつの力です。だから三次市も，お金がないではなくて，収益事業をしようという意味で，もっと積極的に，明るく前を見る。市民からいい案が出てくるのではないか，老人クラブなどもいい知恵をいっぱい持っているのではないかと思います。

あとは，ひとつずつの言葉がしっかり綺麗にまとまっていて良いと思います。

（委員１３）

やっとスタート地点に立つのかな，と思います。

概要版にも，計画の実施とＰＤＣＡサイクルが示してあります。では，誰がどの時期にどういったプランを立てるのか，またその横に「まちづくりの課題」「大切にしたいこと」「参加と行動」とありますが，誰が実施，参加して行動するのか，Check，Actionについて，どういう評価項目を用いてどの時期に評価するのか，それをどのように市民にフィードバックするのか，こういったことを真摯に考えていくことが，これから重要になってくるかと思います。

各論について言うと，少子高齢化，これは皆さんが思っていることです。医療の視点から言いますが，日本人の三大死因，一つはがん，そしてもう一つは生活習慣病，その生活習慣病の中には主に脳卒中，そして心不全があります。また，死因には及びませんけれど認知症が必ず増えてきます。そういった中で誰がみるのか。先ほど家族ということもありましたが，確かに家族も重要です。しかしながら，少子ということは人口が減ってくるのです。そういう中で地域でみるということも重要になってくるのではないかと思います。

今日の附属資料２４頁に，中学生，高校生のアンケート結果で「三次市に住み続けたいか」というものがありますが，５０％を切っています。少子の上に，三次市に半分も残らないかもしれない。市民アンケートでは，３５頁「これからも住み続けたいか」，これは全体で４８．８％です。なぜ住み続けられないのか，「交通の便が悪いから」「日常の買い物が不便だから」ということで，日々の生活に関連することが上位に挙がっています。

今後，大きな問題になってくるのが高齢化です。それに伴い，様々な健康障害，あるいは介護と福祉の部分，こういうことも考えると，それを誰が支えるのか，そしてそういった計画は誰が参加していくのか，これを真摯に考える必要があるかと思います。

（委員１４）

私も，計画がよくできているなと思っております。細かいことを色々言いましたが，それもほとんど網羅して頂き，また色遣いも優しくて，いいかなと思います。

保健の立場で言うと，歯科保健について触れられていないと思います。「８０２０達成運動」という，８０歳までに２０本の歯を残していこう，生涯自分の歯で噛み続けることで，認知症を予防するとか，効果も色々言われております。口腔に関する法律，広島県では条例もできていますし，そのあたりも加味して，健康寿命の延伸のためにも，歯科保健を入れてもらえたらいいかと思います。

２０頁「食育の充実」，２５頁「生涯にわたった食育の推進」などの項目が，密接な関係になっていると思います。行政では，妊婦から乳幼児，成人期，高齢期というように支援されていると思いますので，歯科保健の視点に立った文言を加えて頂けると，歯科の分野も網羅されると思いました。

（委員１５）

２つのことを申し上げたいと思います。

今日の資料を読むと，これまでの様々な意見を踏まえて修正を繰り返してきたために，整合性

がとれなくなっている箇所があろうかと思います。表記・表現の所以，熟していない表現，句読点を適切な場所に打てば誤解がなくなるだろうと思われるような箇所，こういった点が目立つようになったと思います。ぜひ，統一性，整合性という視点から，もう一度，文言等の統一をお願いしたいと思います。

また，今日，用語集がついてきたことで，どういった観念でこの資料をまとめられたのか，ということが明らかになったのだろうと思います。ここからもう一度，再スタートで，よりよい三次をつくるために皆さんが議論していかれるわけですから，これをぜひ活かして頂ければ，という方向でお考え頂くのがいいのではないかと思います。

もう一つ，概要版についてお聞きしたいのですが，今日配られたこの形式で概要版が作られるのでしょうか。様式というのは決まっているのでしょうか。

（伊藤会長）

おそらく，Ａ３見開きになると思います。

（委員１５）

Ａ３見開きであればよいのですが，今日の資料は綴じてあるので，概要版と言いながらバラバラになる感じがしました。せっかくですから，開いてパッと一度に見えるような体裁になれば，概要版と本編の違いがはっきりすると思います。

（委員１６）

随分，流れが良くなっていると思いますが，一点だけ，１５頁「まちづくりの基本的方向の概念」です。

「まちづくりの取組の柱」があって，そこから「重点的な取組」とあるのですが，「重点的な取組」の方が「まちづくりの取組の柱」より上位の概念だと思います。どうしたらいいかと色々考えていたのですが，先ほど委員７から「挑戦という言葉は非常にいい言葉」だという意見がありました。１頁目下から３行目にも「新たな取組に挑戦していかなければなりません」とあります。ということで，こういう整理をしてはどうかと思います。

「まちづくりの取組の柱」と「重点的な取組」を左右入れ替えて，「重点的な取組」を「４つの挑戦」という形でまとめたらどうかと思います。位置としては「基本的視点」「大切にしたいこと」の右側に矢印が入ります。それから「めざすまちの姿」の方からも矢印が入ってきて４つの挑戦。その４つの挑戦を具体化していくために，この５つの柱で取り組みます，という形で整理すると，分かりやすくなるのではないかと思います。

（委員１７）

私がもし仕事をする立場だったら，ここまでやってもらえればありがたい，と感じました。

気になるのは，システムをつくります，確保します，支援します，とありますが，これは，市民の立場からは，受け身になっていると感じます。今回の一番の柱である，市民の参加と行動をを考えたときに，市民まちづくり塾などで議論してきた参加と行動の部分が薄まっているのではないかと思います。

また，医療・福祉などの分野でも，周りがどうこう言うのではなく，自己決定がなければ何も始まらないと思います。そのためには，情報を得る場所が必要であり，患者図書館の設置を検討してもらいたいと思います。

概要版にも，もっと意気込みが感じられるようなものがあればいいかと思います。

それと，脱字だと思うのですけれど，１６頁「保健・医療」で，「歩いて元気に暮らすまちづ

くりによる健康寿命の延伸」ではないかなと思います。

（委員１８）

よくまとめてあると思いました。

１４頁「人口減少・少子高齢化」ですが，実際，人口減少は防げないということは皆さんもおっしゃっています。ここにある「高齢社会に挑戦します」という言葉，また「地域の特性・個性を活かした地域づくり」とありますが，具体的に，例えば，地域の年長者等が参加できる仕組みを考慮した上で，「地域の特性・個性を活かし，成熟した地域づくりを目指します」とか，そういったところで，高齢者の参加を促すような仕組みがあってもいいのではないかと思いました。

私自身，約２０年前に，東京から田舎の方に居を移しました。長年，建築物の設計，エネルギーマネージメントというものに関わって参りまして，環境づくりについて考えています。東日本大震災の時には，福島に想定外の津波が来たために，とんでもないことになってしまった。また，道路設計等についても，あらゆることを考慮して設計するのですが，今は短時間に想定以上の雨が降ります。本来であれば，道路に水が溜まるという設計になってはいけないのですが，実際にはそれがあちこちで，三次でも我々が住んでいるところにもあります。

私は，田舎に帰って気がついたのですけれど，年長者，おじいさんやおばあさんが元気なところというのは，地域も活性化しています。例えば，３２頁「環境づくり」の具体的な取組で，年長者が参加できる方法などに関する記述があってもいいかと思いました。

（委員１９）

この審議会で色々なことを自由に言わせてもらって，そしてそれを随分取り入れて頂いております。大変有り難いことだと思います。

まず，第１章から第３章まで，中身をよく読めば分かるのですけど，文章が長い気がします。３頁から６頁まで，７頁から９頁に，重複した部分が多いのではないか，という気がします。

次に，第４章ですが，「まちづくりの取組」の中に「取組の方向性」，そして検証のために「施策の成果をはかるのに参考となる指標」というのがあります。指標は，今日のところは調整中とありますが，これはとても分かりやすいものだと思います。文章に書いただけでは分かりにくいのですが，数値になるとよく分かります。できれば，現在，５年後，そして最終の１０年後には，こういう風になっていると示してもらいたい。例えば，１８頁「子ども達に，しっかりと基礎学力，基礎体力を身に付けさせます」とあり，全国学力の順位，体力の順位だと書いてありますが，今何位，５年後は何位，１０年後は何位を目指す，となっておれば，これを見た子ども達が，自分たちがやっていくんだ，と受け止めてくれるのではないか，と思います。この他にも，今後どんどん上げていこう，また今のレベルを保とう，減らしていこう，というそれぞれの目標があると思いますが，はっきりと指標として示しておく方がよいのではないかと思いました。

１頁「総合計画の趣旨」で，真ん中あたりに「中国横断自動車道尾道松江線の開通で，その拠点性はさらに高まることが期待」とありますが，５頁２行目には「地域間競争の激化などによって，本市の拠点性が損なわれる」とあります。中身をずっと読みましたら，その違いは分かるのですが，ここだけを取り上げてみると，相反する表現に見えてきます。

それから，先ほど「環境づくり」で鮎，ホタルのことをおっしゃっいました。「鮎が住み続けられる川」とありますが，実際には，鮎は住み続けるのではなくて，年魚です。例えば「遡上してくるようないい環境の川にしよう」というような表現の方が，どこからも誰からもあれこれ言われないのではないかと思います。

１９頁下から４つ目の丸に「本市の文化・芸術を発展的に継承」云々があります。ここでは文化施設の市民ホール，奥田元宋・小由女美術館というのが例示してあるのですが，できれば，あ

るものはみな挙げてもらいたいと思います。そうすると「あ，自分の所のあれが」という風に思うのではないかと，そういう気がしました。
全体的には，意見も多く入れて頂き，よく作って頂いたと思います。

（伊藤会長）
指標等は，今から入ってくると思います。個別の，例えば社会教育であったり，自然環境であったりというのは，具体的な取組の中で数値を示したりということがでてくると思います。審議会のみならず，市民全員でチェックして頂けると思います。
それから，１頁目と５頁目の趣旨，相反するのではないかというご指摘を頂いたのですが，５頁目では，せっかく尾道松江線が開通しても放置していれば，あるいは受け身のままでは，それを失う可能性があるという表現なので，これはこれでいいかな，というような気が致しました。

（委員２０）
新しい意見ではないのですが，先ほどもおっしゃっていました，尾道松江線という表現を「尾道三次松江線」に変えた方がいいのではないか，ということを何度も出させて頂きました。
この場だけではなくて，そういう意識を常に持つことが非常に大事だなと，改めて感じました。

（委員２１）
２９頁「男性の子育て参加の促進と支援強化」というところですが，私も子どもが３人いて，Ｉターンですので，おじいちゃんおばあちゃんもおらず，子育てしています。男性に子育てをしなさいと言うことも大事ですが，企業への指導を強化する，これが一番大事なことではないかと思います。私がサラリーマンをやっていた頃は，家事等をほとんど手伝っていませんでしたが，自分で起業している今は，時間がとれるようになったのもあるし，気分的なこともあって，子育てや，洗濯，アイロンなど積極的にできるようになりました。企業への指導というのはやはり大事なのではないかと，特に，経営者の理解がないと難しいということを，付け加えてもらいたいと思います。
それから，３０頁イです。前回も言いましたが，「普段着スタイルの外国人観光客誘致の取組強化」は要らないのではないかと思います。その上の項目を「外国人観光客の受入れ体制の整備と誘致」とすれば，これは必要ないと思います。
３１頁「交流の推進」で，「農業を活かした農村体験などの提供による交流の推進」とありますが，どうも私は「農村体験」というのが気になります。三次市に村はないですよね。イメージで「農村体験」と書かれていると思うのですが，「農業体験」という表現の方がピンとくるのではないかと思います。「村」とあると，どこか三次市に村があって…みたいに思う。実際，街に住んでいたら，そう思うと思います。ですから，「農業体験」の方が分かりやすい。
最後に，３１頁一番下に「三次市出身者や縁のある人々による「（仮称）地縁者ネットワーク」の構築と情報の交換」という箇所です。これはいいと思うのですが，同じ頁の上から４番目にも全く同じものが書いてある。少し変えるか，どちらか一方にするか。読んでいると，同じことが書いてあるので，何だろうなと思います。

（委員２２）
１８頁「子育てと仕事が両立できる環境づくり」に，「待機児童数」と書いてあるのですが，子どもとの時間を大切にすると，フルタイムで働くことは難しいので入所を諦めている人や，仕事が決まっていても選考基準指数で優先順位があって，やむなく仕事を諦めてしまった人の子ども達は，待機児童の定義に該当しません。困っている人達は，待機児童の定義に該当しない人達

にも多いので，新たな指標を考えてもらえればと思いました。

１４頁が色分けされていて，見やすくて視覚で訴えてくるので，見ていて分かりやすいと思いました。概要版イメージの「重点的な取組」についても，できれば同じような色分けにしてもらうと，視覚的にも訴えてくるものがあるのではないかと思いました。

（委員２３）

「ひとづくり」か「しくみづくり」かと思うのですが，人口減少を食い止めようと思ったら，今の子ども達が何らかの形で地元に戻ってくるとか，残って生活をするということが大事だと思います。それには，地域との関わりがすごく大事だと思うので，「ひとづくり」に，伝統・文化の継承，保護とかありますけれど，そういうことを，学校単位で取り組むというような内容を，具体的な取組として記述してあったらいいかと思います。

それから，自治連合会などで色々活動されていますが，参加者が大体決まっています。以前は青年部に若い方もおられたそうですが，今はないので，「しくみづくり」で，年齢に分けて，参加しやすい取組について記述してもらうと，自治連合会などにも参加しやすいかと思いました。

（委員１）

三次は住みやすいまちということにはなるでしょうが，商売しやすいまちかというと，会議所の会員たちは今，あえいでおります。その原因は，大企業の進出，原材料価格の高騰などです。計画には，新たに起業する人を応援するとか，新たな産業分野を持ってくるとか，新規の支援については示されておりますが，既存の商工業者に対する支援，どういう風に盛り立てていくのか，といったことが弱いと思います。市がどこまで本気を出しているのかというのは，市民も商売人も業者も皆，見ておりますので，そのあたりが出てくれば，と思います。

１９頁「国際感覚豊かなひとづくりを進めます」と書かれていますが，その割には，子ども達に対する市の支援が薄すぎる。お金がない中で無理を言ってもいけませんが，ぜひ，子ども達に対する予算は，そのまま確保して進めてもらいたいと思います。。

それから，くるるんバスですが，非常にもったいない。私もいつも見るのですけれど，誰も乗っていないのです。ＪＲで三次駅に来られた方が，公共交通機関が脆弱だから行きたい場所に行けない。ＪＲが着く時間に，くるるんバスをなぜ三次駅前につけておかないのだと，言われました。やっています・知っています，だけではなくて，利用者の思いを聞いて，無いお金の中で運用しているのだったら，効率よくやられたらどうかと思います。

先ほど，委員２１が言われた父親の子育て支援ですが，地元企業は，中小零細企業がほとんどなので，おそらく余剰人員を抱えている企業はほとんどないと思います。いっぱいいっぱいでやっておられると思うのですけど，逆に言ったらそれは企業の言い訳でありまして，やろうと思えばできるのにやらないのです。近隣のご不幸があって明日休みます，それと同じではないですかね。葬儀だったら休んでいいのに，なぜ子育てだったら休んではいけないのか。やる気がないからです。そのあたりを商工会議所としても，働く女性の支援を含めまして，今後進めていけたら，と思っています。

（伊藤会長）

ありがとうございました。

重要なご意見がたくさん出たと思います。１５頁に重要な概念図が出てきます。これは概要版にも使われると思うのですが，左側「社会状況の変化」「まちづくりの課題」は，前段に出てきているからここからは取る。一番目立って欲しいのは，５つの取組の柱と４つの挑戦ですので，これを真ん中に入れて目立たせればどうか。それから３つの視点，２つの大切にしたいことは，

それを支える役割でしょうから，周辺から支え持つという程度にする。一番目立たせたいもの，４つの挑戦，５つの柱を，是非真ん中に据えて頂ければと思いました。

それから，これは重点的な取組のひとつにも挙がってくるのですが，１９頁目中程「２０２０東京オリンピックの事前合宿の誘致」，これ非常に面白い取組，重要なことだと思いますので，「オリンピック」の後ろにぜひ「・」を入れて「パラリンピック」，「オリンピック・パラリンピック」としてもらえればと思います。

(2) その他

（伊藤会長）

時間になりました。色んなご意見が出てきました。中には，ある委員と別の委員で対立する点もあったかと思います。それはもう一度，事務局でご検討頂くことが必要かと思いますが，そうは言いながら，全てのご意見を反映させるのはなかなか難しいかと思います。

市役所内部でも，この審議会とは別に，実務ベースで策定委員会というのが動いておりますので，特に後半の具体的な施策については，おそらくこの計画期間中にできるもの，できないものを真剣に議論されているのだろうと思います。スケジュールの関係もありまして，ご意見の全てについて１００％対応できるかどうかは分からないということを，ご了承頂けたらと思います。

次回は，２月６日と決まっています。今日，言い残したこと，あるいは事前に資料を見られてまだまだ言いたいところあるかと思いますので，何かありましたら，明日夕方までに事務局にご連絡頂けたらと思います。

次回は最終回です。先ほど諮問を受けましたので，答申という形で取りまとめを行いたいと思います。

５　閉会

（事務局）

長時間に渡りましてご審議頂き，ありがとうございました。

次回の審議会は，２月６日木曜日，１３時３０分から，この会場で開催します。次回が最後の審議会となります。引き続きよろしくお願い致します。

それでは以上を持ちまして，第５回三次市総合計画審議会を終了致します。

本日はどうもありがとうございました。

以上，この議事録が正確であることを証します。

平成２６年１月２９日

三次市総合計画審議会　　議長（会長）

委員

委員